

令和6年度 授業改善推進プラン 社会科

①「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の分析も含む）

※3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

3年	【知識・技能】	資料から必要な情報を読み取ることが難しい児童がとて多い。特に大田区の地形や特徴を資料から読み取ることや活用に課題がある。
	【思考・判断・表現】	資料の読み方、必要な資料、考える視点を与えたが、一人で自分のノートやワーシートにまとめることが難しい児童が多くみられた。
	【主体的に学習に取り組む態度】	調べる視点を基にポストイットで自分の考えを出し合い、発表にすることを通して、スーパーマーケットで働く人々の工夫について多くの児童が気付くことができた。ただし、その工夫が、どのような思いが基にされているのかを考えることには課題がある。
4年	【知識・技能】	区の目標値を約5ポイント下回る結果となった。特に「地域や市の様子」の地図記号、「市の様子の移り変わり」の税金に対する理解に課題がある。地図記号の理解度が低かった。また、資料を読み取る問題の正答率も低かった。
	【思考・判断・表現】	区の目標値を1ポイント上回っていたが、地図や資料、年表から読み取ったり複数の資料をもとに判断したりする問題の正答率が低かった。
	【主体的に学習に取り組む態度】	区の目標値を1ポイント下回った。ただ、地図記号をもとにして、土地利用の様子を読み取る問題は11ポイントと大きく下回った。地図記号と土地の高低や利用の様子など、複合的に考えることが難しく、基礎知識に関する関心をもてていない。
5年	【知識・技能】	すべて区平均を下回った。都道府県や方位など基礎知識の記述であっても無回答が多い。一般的な基礎知識の習得や語句を理解するところに課題がある。
	【思考・判断・表現】	すべて区平均を下回った。仕組みや工夫を考えるなど、全国の正答率が高い問題でも、正答率が50%以下であった。資料の読み取りの課題のほか、身近な生活と結び付けて思考する意識が低いことが考えられる。
	【主体的に学習に取り組む態度】	選択式の回答であっても、無回答が一定数いる。語句記述の問題の無回答は30%以上であり、短文記述の無回答は50%以上である。基礎的な知識の習得が十分でないことが、主体的に取り組む態度につながりにくい原因になっていると考えられる。
6年	【知識・技能】	約1ポイント、区平均を下回った。「沖ノ島」や「琵琶湖」といった記述での回答の正答率が大幅に下回っている。また、用語の理解や資料、グラフの読み取りに課題が残る。
	【思考・判断・表現】	区平均を下回っている。日本の食料生産の資料読み取りが大幅に平均を下回っている。資料を基に事実や変化を説明することに課題が残る。
	【主体的に学習に取り組む態度】	約1ポイント、区平均を下回っている。語句記述の問題をはじめ、選択の問題も無回答が多くみられる。学習した内容や資料、グラフをもとに、自分に身近な事象ととらえ、考えをもつことに課題がある。

②授業改善策

- | | |
|-----|---|
| 3 年 | <ul style="list-style-type: none">・初めての社会科であり、資料の読み方と資料から読み取れることを抜き出しまとめることについて、丁寧に指導していく。・話し合いや思考時には、話し合う内容から考える視点からずれないように助言する。・社会科見学や区の資料等を活用し、調べる習慣と学習内容の定着をできるようにしていく。・身近で働く人々の仕事について、日常生活と結び付けて、理解の定着を図る。 |
| 4 年 | <ul style="list-style-type: none">・地図帳の活用や新出用語の指導を積極的に行い、知識の定着を図る。・様々な資料を見たり見比べたりする機会を増やすために、教科書だけでなく、新聞やニュースなどの多くの資料に親しませる。・基礎知識に対する関心を高めるために、地図記号や資料を日常生活と結び付けて考える機会を、授業中に設定する。 |
| 5 年 | <ul style="list-style-type: none">・地図帳を日常的に開かせ、地図記号や方位、県名を繰り返し指導し、知識の定着を図る。・資料から読み取れたことを、グループや全体で比較検討し、ノートやオクリンク、スライドにまとめさせる。・ICT を活用し、表やグラフの目的に応じた見方や読み取りに慣れさせる。・必要な基礎知識の確認をプリントなどで日常的に行う。・写真や映像などを中心とした導入を行い、基礎知識の補完をするとともに、問題の理解をしやすいとする。 |
| 6 年 | <ul style="list-style-type: none">・歴史単元では出来事と地理とを結びつけながら指導することで、5年の学習内容への理解を深める。・調べ学習では、資料やグラフを読み取る機会を増やし、問いに対する自分の考えをノートにまとめたり、発表したりする活動を積極的に設定することで、根拠をもって発表する力を育てる。・調べ学習では、自分で課題を見つけてその課題に対して調べる機会を増やしたり、自由進度型の学び方を単元によって取り入れたりして、自己解決できる素地を養う。・単元末、朝の時間や隙間時間を利用して、タブドリで既習事項を復習する時間を設定し、基礎基本の定着を図る。 |